

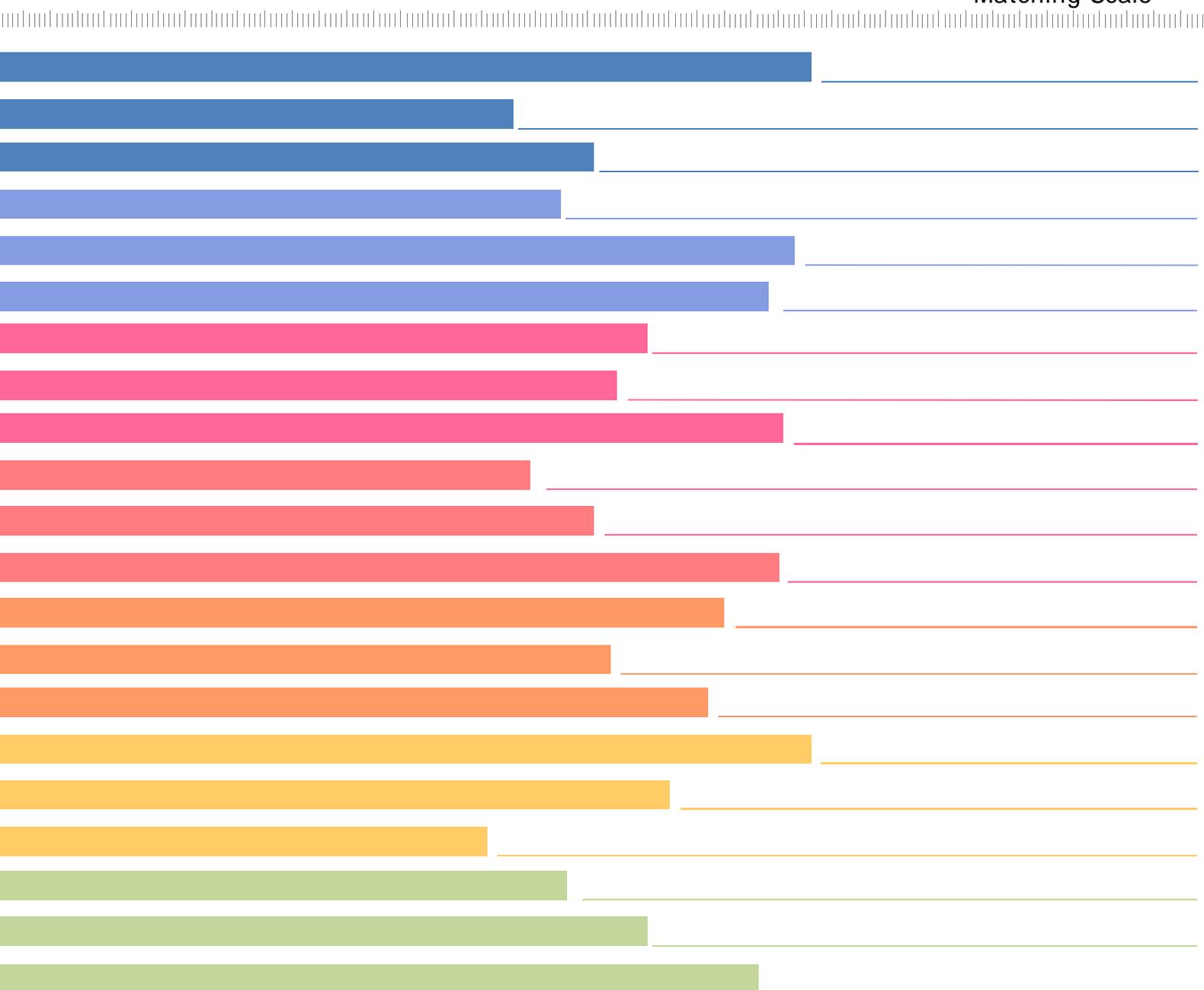


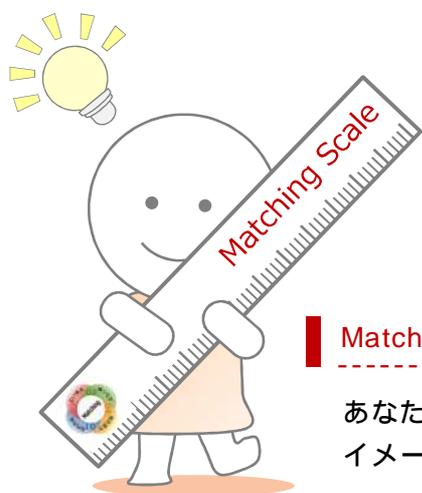
# マッチングによる政策の推進

平成27年11月

政策経営部

Matching Scale





### Matching Scale (マッチングスケール)

---

あなたのマッチングを計る (= 数値化する、見える化する) ことをイメージするものとして、マッチングレポート第2号より登場。

# 目次

はじめに	2
------	---

## 第1章 現場からのレポート

1 若者支援の取組み	
(1) 世田谷区が行う総合的な若者支援	3
(2) 若者の社会的自立の促進、生きづらさを抱えた若者の支援	4
) 世田谷若者総合支援センター	
) せたがや若者サポートステーション、ヤングワークせたがや、メルクマールせたがや	
(3) 中高生世代の居場所づくり・参加・参画	10
) 野毛青少年交流センター	
) 青少年交流センター・池之上青少年会館	
) 中高生支援館(児童館)	
(4) 地域資源活用、大学連携	20
) 岡さんのいえTOMO(地域共生のいえ)	
コラム ~若者支援だけじゃない!~	
(1) 砧地域ご近所フォーラム	24

## 第2章 これらの取組みから見えてきたもの

1 マッチングの視点から	27
2 あなたのマッチング	29
3 組織のマッチング	32

## 第3章 これからのマッチング

1 マッチングレポート第2号の発行にあたって	34
2 今後の取組みの方向性	34

### 《参考》マッチングレポートについて(第1号再掲)

1 経過	35
2 「基本計画」におけるマッチングの取組み	35
3 マッチングの基本的方向性(4つの要素)	36
4 マッチングにより、めざしていく3つの挑戦	38
5 マッチングのモデル	39
6 モデルから見えてくるもの	41

## はじめに

### マッチングは人と関わり生きていくことそのもの

—— 総合的な若者支援の現場には、マッチングのヒントがふんだんにあり、人が生きていくための力、人と人とがつながっていくことの大切さを再認識させられる、熱意溢れる同僚と関係者たちの姿がありました ——

マッチングをひとことで述べようとすると、なかなかうまく説明できないのではないのでしょうか。

マッチングレポート第2号では、第1号にて示した6つのモデルのうち、掲載できなかった若者施策の取組みを中心に取り上げています。

第1号で整理した4つのマッチングの基本的方向性である、目的の共有、各々の組織にこだわらない広い視点、横つなぎ・組み合わせ、相互協力に照らして、総合的な若者支援の現場を見てみると、だれにでもできる簡単なことから、しっかり挑戦していかなければいけないことなど、具体的なヒントや手がかりが見えてきました。

また、マッチングにより、働く人のモチベーションをあげたり、働きやすい職場になったりするなどの効果も得られています。



マッチングの基本的方向性

今回は、身近なところから簡単なマッチングをはじめられるという、はじめのステップから、組織や政策、地域社会へと、大きく関わっていくその次のステップまで、総合的な若者支援の現場での取組みを紹介するとともに、マッチングの視点での解説を加え、レポートをまとめました。

このレポートは、今後の事務運営や事業展開などに向けた進め方に関する考え方や取組み手法などについて、参考とすべく活用されることを期待し、庁内外に発信しています。

見落としとしてしまっている視点がないか、あなたのマッチングをもう一度考えるきっかけとして、本レポートを活用していただきたいと願っています。

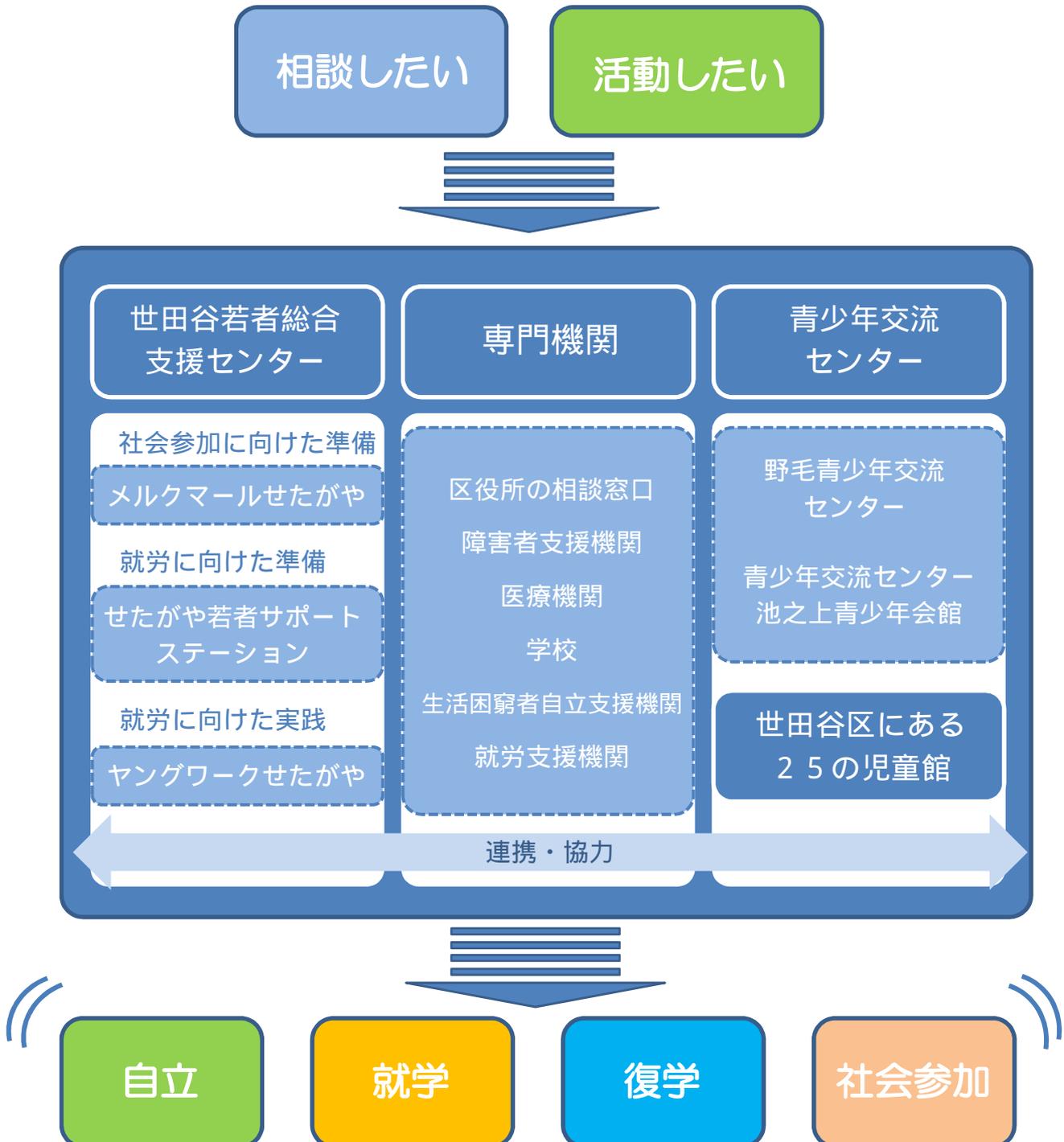
# 第1章 現場からのレポート

## 1 若者支援の取組み

### (1) 世田谷区が行う総合的な若者支援

世田谷区ではこれまで、各機関がそれぞれの方法で若者への支援を行っていましたが、平成25年に若者支援担当課を設置して、総合的な「若者支援」をはじめました。

若者支援と一言と言っても、相談支援、活動支援など、その形は様々です。相談支援は若者総合支援センターや、その他の専門機関で行っています。活動支援は、青少年交流センターや区立児童館で実施しています。区ではそれぞれの機関が連携して、総合的な支援を行っています。



## (2) 若者の社会的自立の促進、生きづらさを抱えた若者の支援

### ）世田谷若者総合支援センター(せたがや若者サポートステーション、ヤングワークせたがや、メルクマールせたがや)

「世田谷若者総合支援センター」は、平成26年9月に世田谷ものづくり学校の3階に開設され、ニート、ひきこもり、無業等の状態にある若者が、社会的・職業的に自立できるように、総合的なサポートを行っている施設です。「せたがや若者サポートステーション」「ヤングワークせたがや」「メルクマールせたがや」の3つの機能があり、各機能が綿密な連携を図りながら、対象者の状況（段階）に応じた切れ目のない、きめ細やかな支援を行っています。

対象は、「せたがや若者サポートステーション」「ヤングワークせたがや」が15～39歳までの方とご家族、「メルクマールせたがや」は中高生世代～39歳までの世田谷区民とご家族が対象です。



元池尻小学校を活用しているものづくり学校

## 社会参加に向けた準備



ひきこもり等の生きづらさを抱えた若者とその家族へ、関係機関と連携を図りながら、『3つのチャ(CHA)』(CHANCE、CHALLENGE、CHANNEL)を基本に据え相談、居場所づくり、家族支援及びセミナーの開催を実施し、社会的自立に向けた総合的支援を行っています。



## 就労に向けた実践



就職や働くことに不安がある若者とその家族へ、ひとりひとりの状況にあわせた、これからの方向性を個別面談や各種プログラムをとおして一緒に考えていく就職準備支援を行っています。



教室を利用したオフィス

## 就労に向けた準備



今後のキャリアを明確にイメージしたい若者とその家族へ、地域の方々の協力のもと、就職への視野を広げ、自分に自信をもって就職活動に臨めるように、職場体験や就活基本セミナーなどのプログラムを通じて、就職へのサポートを行っています

平成27年7月22日に「せたがや若者サポートステーション(以下サポステ)」篠原健太郎所長と「メルクマールせたがや(以下メルクマール)」廣岡武明副施設長よりマッチングの視点から若者総合支援センターの運営について、お話をうかがいました。



左: せたがや若者サポートステーション 篠原所長

右: メルクマールせたがや 廣岡副施設長

## “ 利用者の目線で支援を考える ”

メルクマールで行っている「活動グループ」は、現在3つのグループがありますが、誰でも入れるようなフリースペースとしてではなく、登録制にしています。理由は、誰でも入れるようにすると利用者が逆に入りづらくなってしまふ、刺激が多くなり落ち着かなくなってしまうという理由からです。そのため、グループに登録していただいて、まずはグループになれてもらうようにしています。グループでは、一緒に行く活動の他にはフリーの時間も設けており、その時間は登録している方は自由に参加が出来るようになっています。

「家族セミナー」は、回を重ねるごとに参

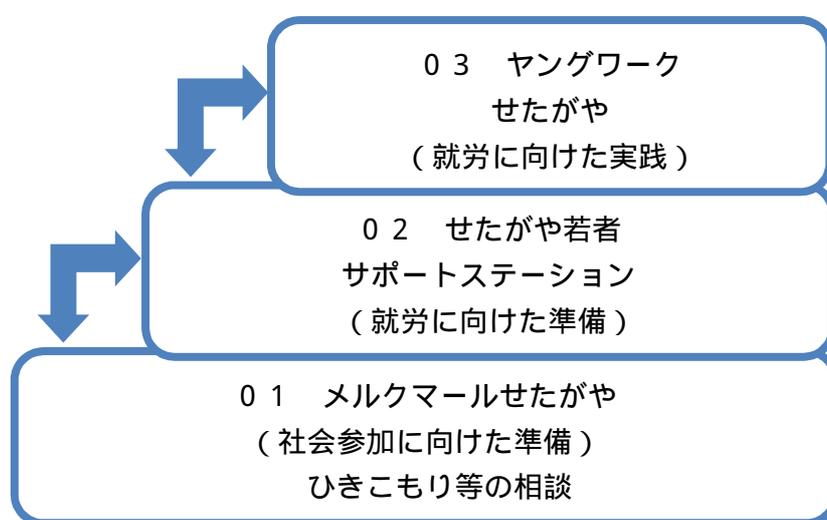
加者が増えています。「家族を知る」をテーマに、これまでのご家族からの相談を通じ、ひきこもってしまうのは、本人の問題だけではなく、視点を広げて家族の問題として捉えていていただくような話を行うなどしています。

「居場所事業」は、季節別のイベントや外出プログラム、利用者がやりたい企画など、様々なことを行っています。外出プログラムでは、「利用者がいける範囲」で「興味があること」をするといった、利用者が中心となりプログラムを考えています。

## “ 近くにあるということが綿密な連携につながっている ”

このセンターは、サポステとメルクマールが同じフロアで一体となっていることにより、並行利用できることがすごく良いところだと思っています。メルクマールができた当初は、もちろんお互いのことを知らないため、構えてしまうところがありましたが、徐々に連携していきながら、それぞれの良さを出し合っ

ていくことができました。また、近くにあるということで、気軽に相談できたのが良かったです。さらに、近いとスピーディに対応することもできます。他の関係機関とは、日程調整から行わなくてはいけないため、迅速な対応ができない場合があります。



## “ 連携しないとたない事業です ”

メルクマールの支援は、訪問から始めることはしておらず、まずはご家族に「相談」に来ていただくことから始めています。ご家族の方から状況をお聞きしてから訪問し、ご本人と結び付けていくようにしています。また、関係機関にご協力いただいて、専用ブースを設けての出張相談も行っています。

メルクマールの事業は、関係機関から紹介いただくケースがとても多くあります。逆に、メルクマールから、こちらから他の機関を紹介することもあります。相談から始めていることでつながりを持ちやすくなっています。こういった連携をとおして、関係機関の隙間を埋める役割になればと思っています。

この事業は、関係機関と連携しなければ、

成り立たないため、子ども・若者支援協議会の個別ケース検討会議との連携により、専門機関等と連携した支援も行っています。このセンターが出来る前は、子ども家庭支援センターやスクールカウンセラーなどが相談を受けていましたが、ここができたことにより、さらにつながっていくことができるようになりました。

また、メルクマールで受けるような深刻なケースもこれまで全てサポステで相談を受け、他の機関につなげていましたが、現在はメルクマールとサポステ、その他の関係機関等と事例検討会を行うなどの連携も行い、丁寧な支援を行うことができています。



## “ 必要と思う協力先は、自分たちで動いて広げていく ”

サポステでは、毎週農業体験を行っていますが、この協力農家さんは地域の方などに紹介してもらい、こちらから直接事業の説明をして、ご理解をいただき協力してもらっています。

ヤングワークせたがやの事業は、より就労に近い支援なので、三軒茶屋の就労支援センターとも連携しています。また、障害者就労支援や生活困窮者支援など様々な取組みと一体的に取り組んでいくことで切れ目のない支援を行うことができます。

ハローワーク見学ツアーというものも行っています。なぜ見学ツアーを行うのかというと、利用者に単に「ハローワークに行ってきた」と言っても、施設の入口から入るだけになってしまい、端末を操作して求人検索をするといったことができない場合があるからです。次のステップにしっかりとつなげないと意味がありません。適切につなげていくために見学ツアーを行い、実際に求人検索を一緒に行うなどしています。

また、都立の職業訓練校とも連携をとっています。職業訓練校のことを知らない利用者も多く、言葉で説明するだけで理解してもらうのは難しいものです。そのため、実際に行って、自分の眼で見ることで理解をしてもらい、初めて選択肢の一つになっていくのです。実際に申込みをする人もできました。丁寧につなぐところまでやっていると利用者がその先に進めていけないのです。

サポステの職業見学・体験先として、同じ建物に入っているものづくり学校の事業者の方にも協力してもらっており、良い関係を築いています。

昨年からは、池尻児童館とも連携するようになりました。児童館行事に利用者にボランティアで手伝いをしてもらっています。地域行事にも参加しています。様々な経験をし、「できること」を実感することで、自信を取り戻すなどし、次にステップアップすることができているのです。

### Matching Point



マッチングで事業を推進していくにあたっては、本事例のように対象者の状況や環境など様々な視点から、丁寧で切れ目のない一人ひとりにあわせたマッチングをコーディネートしていく必要があることがわかりました。



### 3) 中高生世代の居場所づくり・参加・参画

#### 野毛青少年交流センター

野毛青少年交流センターは、開設して50年が経過した「青年の家」を「青少年交流センター」として平成26年4月にリニューアルオープンし、青少年が主体的な活動を通して自立・成長し、世代を超えた出会いや交流の機会の提供と、次世代の地域の担い手として、社会への参加を促す活動の場となっています。

運営はNPO法人が受託し、館内は、自由にゲームや読書を楽しめるフリースペースをはじめ、ダンスや卓球ができる多目的ホールや本格的なキッチンスペース、自習スペースがあり、若者の「やってみたい！知りたい！考えたい！」の交流が生まれています。

また、野毛青少年交流センターの最大の特徴として宿泊スペースがあります。長らく休止していた宿泊事業が平成27年度末より再開することで、より一層の若者同士の交流が進むことが期待されます。



みどり溢れる“のげ青”のたたずまい

賑わいが絶えないフリースペース

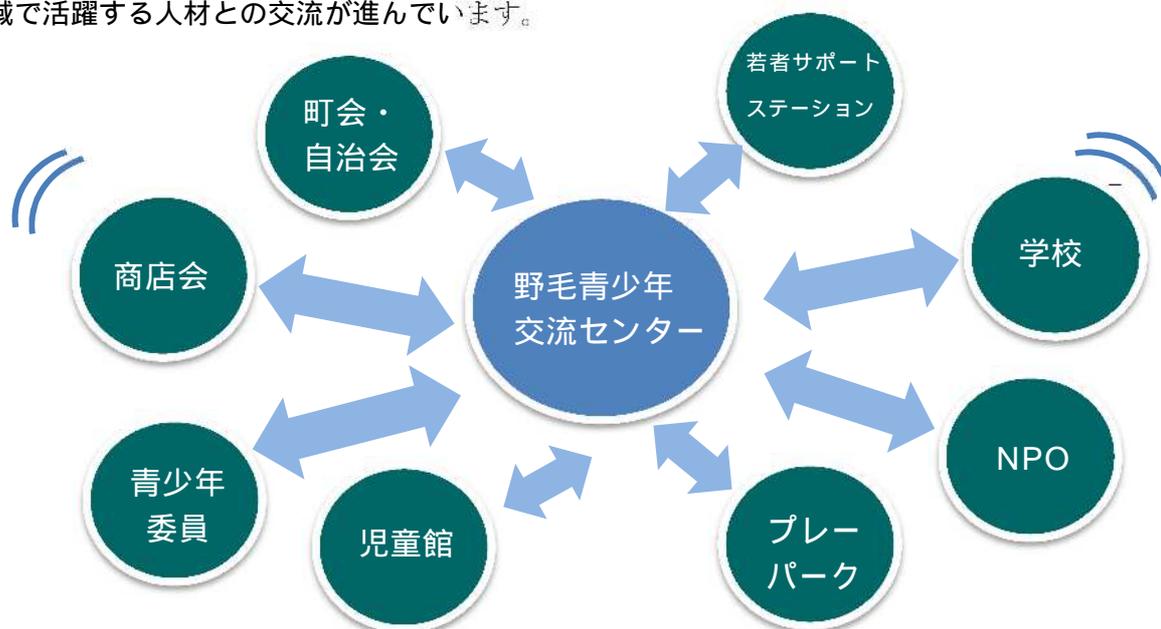


## 人に出会うプログラム

野毛青少年交流センターでは、毎年秋ごろにまつりを開催しています。出店やイベントの内容は、センターを利用している若者が中心となって企画し、運営されます。また、開催にあたっては、町会・自治会や商店街をはじめ、玉川地域児童館、せたがや若者サポートステーション、世田谷リーダースクール、プレーパーク、NPO、大学などといった多くの団体にご協力をいただいています。

まつりの運営で若者は、家庭や学校を離れた枠組みで協力し、「どうしたらまつりに訪れる子どもたちに喜んでもらえるか」を共に考え、悩み、苦勞を分かちあう場となっています。さらに、協力団体に参加している大人と共に活動することで、若者が実際の社会に触れ合う機会も生まれています。

他にも年間を通じてセンターでは多彩なプログラムが企画されています。周辺にお住まいの農家やデザイナー、ジャーナリスト等の方々に講師となっていただき、ワークショップを開くなど、地域で活躍する人材との交流が進んでいます。



平成27年7月15日にNPO法人文化学習協同ネットワーク練馬・世田谷事業部統括責任者の佐藤真一郎センター長よりマッチングの視点から野毛青少年交流センターの運営についてお話をうかがいました。



佐藤センター長



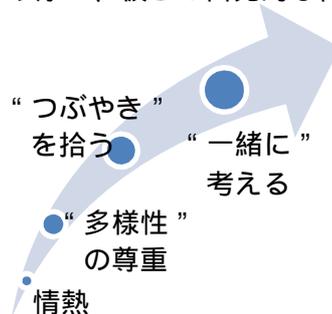
“のげ青”スタッフの皆さん

## “ 職員のあり方が違うのです ”

若者が地域の担い手となるよう、単なるサービスの消費者でなく、創造していく力を育む必要があると考えています。

そのためにセンターの職員は、若者が「気の合う仲間と悩みや未来を語りあう、失敗を気にせず、自立のための試行錯誤を存分にやってみる」といった「若者らしい」経験ができるよう心がけています。そのために職員は、教師のように指導するのではなく、現場に出て一緒に活動しながら若者の“つぶやき”を拾います。その“つぶやき”の中からニーズを拾い上げ、それをどうすれば実現できるか

と一緒に考えていくといったように若者に寄り添い、彼らの自発的な行動を促します。



## “ SPACEをPLACEへ ”

ただし、何をやっても良いとなると逆に何をしたいのかわからなくなるのでセンターの職員は、若者に簡単な活動のモデルを提示します。こうすれば成功する、こうしなさいといったルールや答えを示すことはなく、いつでも壊せるモデルを与えることで、若者がそれを活動の中で試行錯誤しながら組み替え、自分たちのものにすることで、活動の拠点となるこのセンターを自分達の居場所のように感じてもらえるように心がけています。

その活動で若者がやりたいことがあっても、0(ゼロ)から考え出すのは難しい場面があります。

そこで、地域の中にいらっしゃるその分野で活躍している方を探し出し、その方の知恵や経験を踏まえた助言をもらうことで、一步を踏み出す一助になり、こんなにすごい人がすぐ近くにいるということを実感し、あわせて若者が地域と社会のつながりを持つきっかけにもなっています。

### Matching Point



野毛青少年交流センターは、若者の充実した青年期を保障したいという職員の情熱に支えられていました。若者がそこで試行錯誤し、自分達の居場所として感じ取ることで、センターが若者の交流のHUB(ハブ)的な機能を担い、個と個がつながり、人間関係の充実や地域社会とのつながりが広がっています。

その運営を担う関係者もまた、子どもたちのために努力を惜まず、地域の中から協力者を見つけ出し、つながり、広がっています。



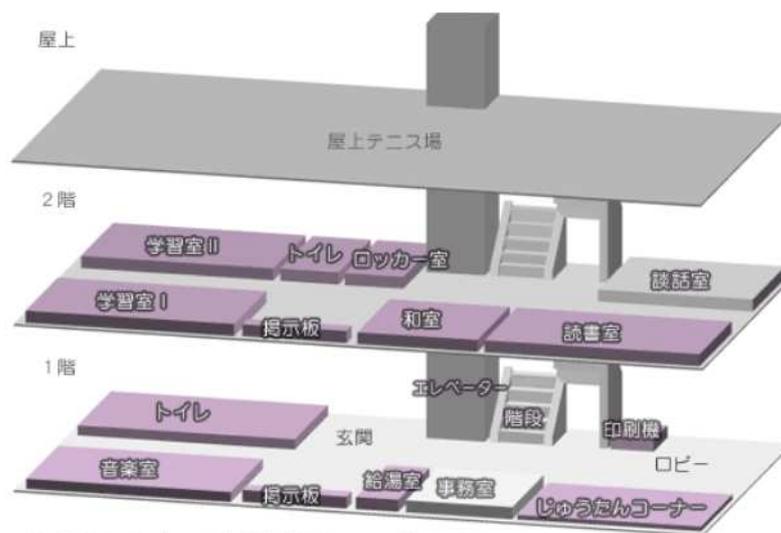
## ）青少年交流センター池之上青少年会館

世田谷区立青少年交流センター池之上青少年会館（以下「池之上青少年会館」）は、青少年の自主的なサークル活動を促進し、その健全な育成を図ることを目的とした施設です。館内は、自由に遊べるフリースペースをはじめ、音楽室や屋上テニスコート、夜10時まで利用できる学習スペースなどがあり、小学生をはじめ多くの中高生でにぎわっています。

また、地域住民の教養と情操を高め、交流の場としての役割も担っています。開設当初の昭和54年から30年以上続いている講座もあるなど、長い歴史と実績のある施設です。



### 住民の声を反映した館内のレイアウト



### 地域に受け入れられる施設

池之上青少年会館は、青少年が活動できる場をといった地域の方々の要望から実現した施設であり、設計から地域の方々のアイデアを取り入れて建設されました。

また、開設してからも、運営方針について審議する「池之上青少年会館運営委員会」と窓口受付や健全育成事業の企画・運営を担う「池之上青少年会館協議会」に地域団体が参

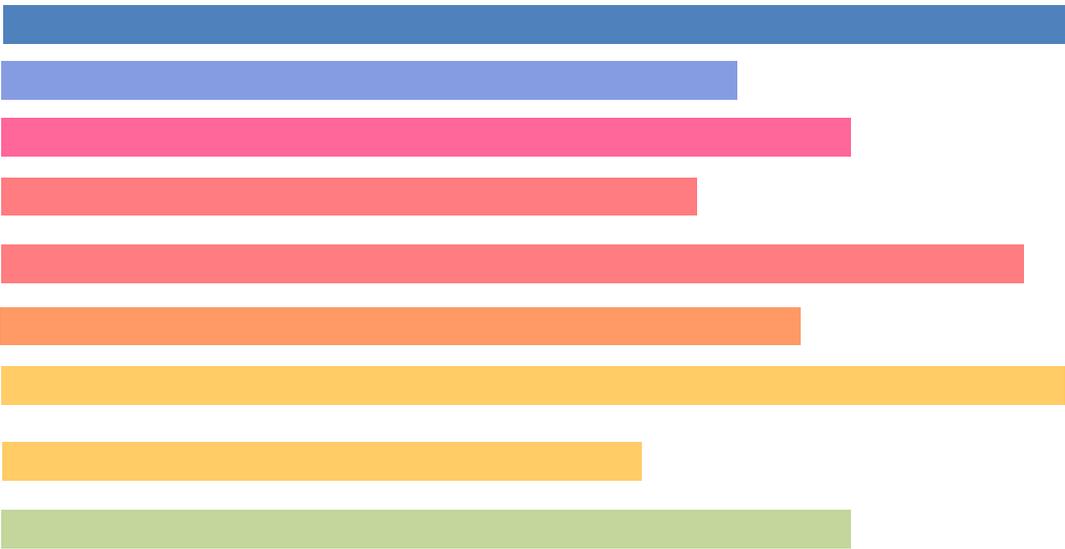
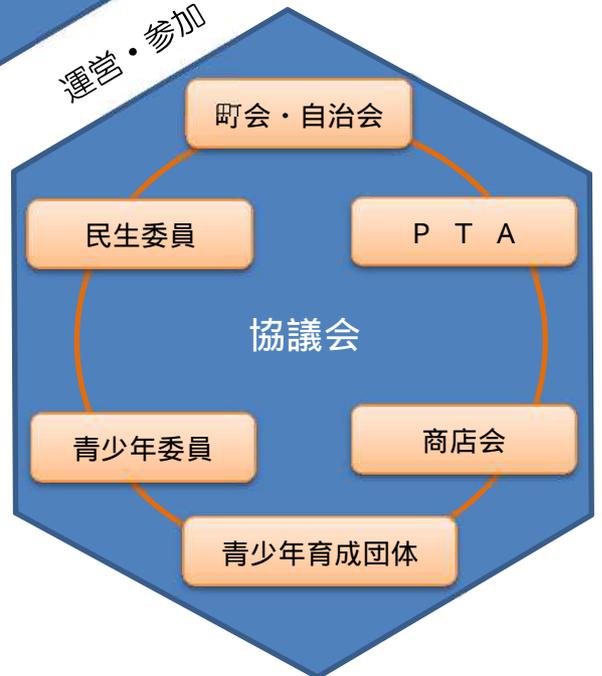
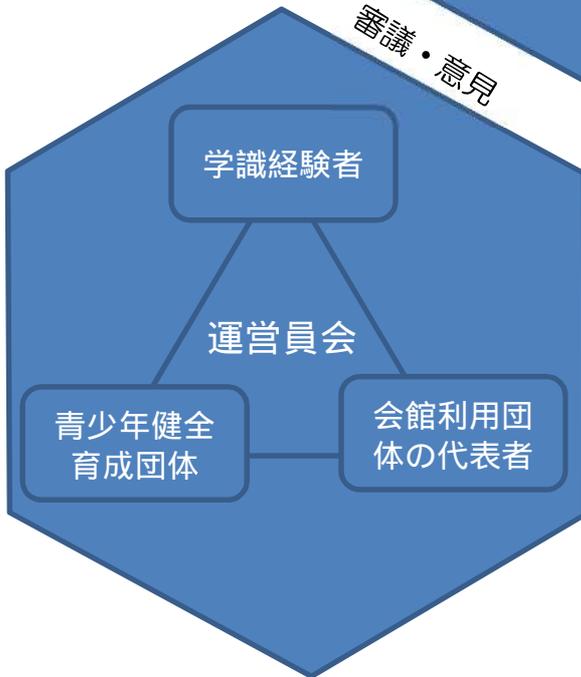
加しており、地域の方々の声を反映し続けてきました。

こうして、開設から運営まで、地域の方々から主体的に参加していただいたことで、「自分達の施設だ」という機運が生まれ、施設を中心に地域の方々による子どもや中高生の見守り、お祭りや事業の企画・運営が積極的に行われています。

青少年交流センター  
池之上青少年会館

審議・意見

運営・参加



平成27年7月16日に上原三代子館長と宗豊主査(社会教育主事)よりマッチングの視点から池之上青少年会館の運営について、お話をうかがいました。



池之上青少年会館運営協議会の皆さん

## “ やりたいことを自分たちで考えると、本来の力を発揮する ”

池之上青少年交流会館では小学生や中高生の自主性を育むために中高生が自ら内容を考える講座が数多くあります。講座の発案や取組みに対して会館の職員は見守りを中心としたサポート役に徹するなど、中高生たちの声を大切にしています。

平成26年度は区内にあるものづくり学校に事業所を構える株式会社HIROBAの宮部氏(CEO、えいぞうディレクター)を講師に迎え、中高生を対象にCMづくり講座を開催しました。しもきたざわ商店会より協力をいただき、商店街にある東洋百貨店の紹介をテ

ーマとしてCMを制作しました。中高生たちは、講師のレクチャーを受けながらも実際まちに出て店員と交渉し、場所のリサーチや撮影、編集を試行錯誤しながら、CMを作り上げました。CM内容や撮影場所、編集までを一貫して自分たちで考え、協力しあうことによって中高生は自分達の力を発揮します。

さらに、地域の方への取材協力依頼などを通して若者が直接大人と触れあうことで、地域の活動を身近に感じ、学んだことを将来に結びつけるきっかけとなっています。

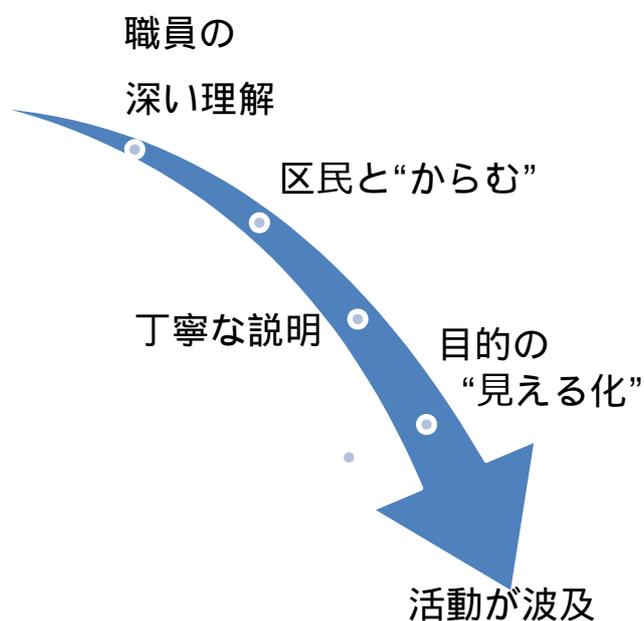
(宗主査)

## “何をやっているか見やすくすることが大切”

池之上青少年会館が区内の青少年活動の中核となるべく、より多くの地域資源と会館を結びつけることが今後の課題です。そのためには、職員が地域の中に入って一緒に悩み、考え、行動する、区民と同じ目線のパートナーであることを大切にしています

職員一人ひとりが、担当する業務が区の目指すどの部分を担い、地域とどのように連携協力するのか、何が重要なのかを理解し、地域の方々へ十分に説明することができなければ、本来の目的を進めることにはならないと考えています。あるべき論の話を押し通すのではなく、相互理解と信頼できる関係のなかで活動は波及していくように受け止めています。そのひとつの例として、資料の作成も目的の“見える化”を意識することが必要でしょう。

(上原館長)



### Matching Point

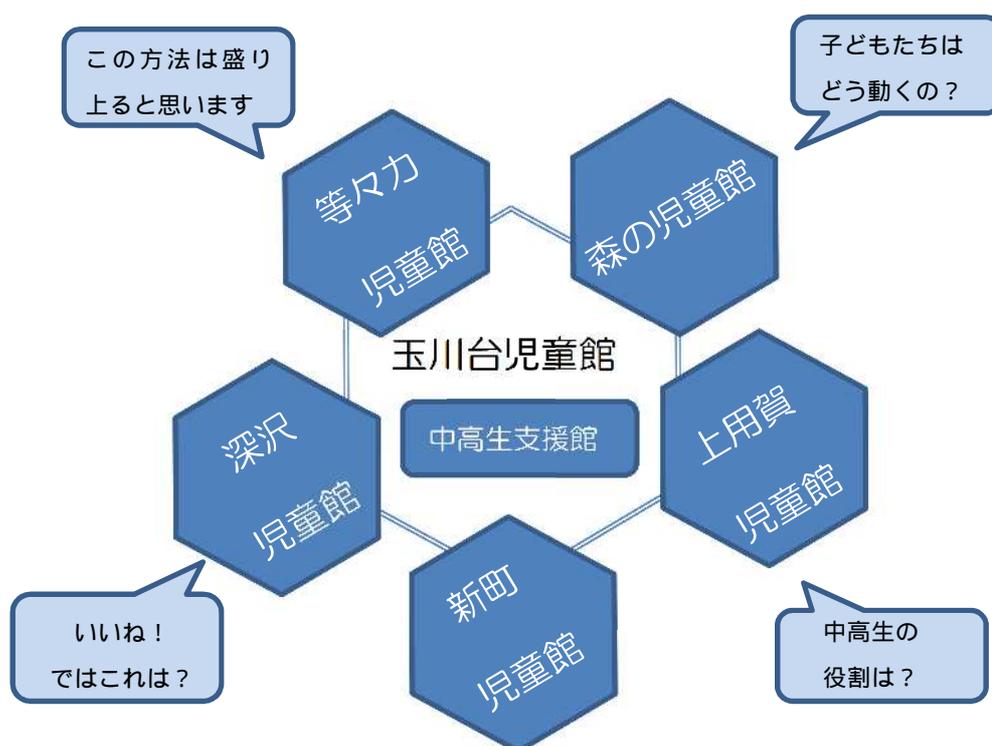
池之上青少年会館では、会館職員一人ひとりと周辺住民の方々我真摯に向き合う“顔の見える関係づくり”と施設を利用する子どもと中高生の自主性を尊重し続けてきたました。このことから、学習スペースを受験勉強で利用していた中学生が、大学生となってボランティアとして運営に参加するなど、地域人材の良い循環が生まれています。



## ）中高生支援館（玉川台児童館）

玉川台児童館は、乳幼児とその保護者、小学生から高校生まで安心して過ごすことができる施設です。また、建物内には玉川台区民センター、玉川台図書館があり、利用者も多く、いつも賑わっています。

平成27年度から、中高生の自主的な参加・参画事業(ティーンズプロジェクト)の実施や毎週2回、中高生の利用のみ午後7時まで開館時間を延長するなど、中高生世代の活動を支援する機能を充実させる児童館として玉川地域の中高生支援館となりました。お祭りなどの企画・運営など、中高生が地域の中で活動



### 地域の中高生支援の拠点として

玉川台児童館は、区内に5つある中高生支援館のひとつとして、中高生支援担当者会や交流事業の事務局的機能を担っています。中高生の活動の拠点として、玉川地域の各児童館の職員が集まり、中高生の支援の取組みについての企画・運営や情報交換を行っています。それぞれの児童館が持つ中高生支援のアイデアやネットワークを持ち寄り、次世代の担い手の育成や環境づくりに取り組んでいます。

平成26年度は、野毛青少年交流センターで行われた子どもまつりに協力するため、玉川地域の児童館を利用する中高生を集めて「T・B・T(玉川ブロック児童館T e e n s)」を立ち上げました。職員は、T・B・Tに参加する中高生が負担感なく、夢中で活動に取り組めるよう、普段からの声かけや相談に乗ったり、時にはやる気のスイッチが入るまで待つといった関係づくりに取り組むことで、中高生の自主的な活動を促すなど「とりあえずみんなで集まってやってみよう」といった“ノリ”を大切にしています。

平成27年7月17日に児童課の森川リエ係長と児童館の日下部俊光館長よりマッチングの視点から玉川台児童館の中高生支援の取組みについてお話をうかがいました。



左:玉川台児童館 日下部館長 右:児童課 森川係長

## “ 帰ってきたら地元で地域の担い手になってほしい ”

児童館は地域密着型なんです。学校が終わった中高生が遊びに来て、ビリヤードやおしゃべり、勉強の場所になったり、午前中には赤ちゃんとお母さんが集まって子育てひろばを開催したりと、乳幼児から中高生まで切れ目なく安心して遊びに来れる場所です。児童館主催のお祭りやキャンプなどのイベントで、児童館に来てくれる中高生が、別年齢や違う学年同士の交流や児童館周辺の地域の方々とのふれあいを通して、地域と関わり、地域の担い手になってくれることを期待しています。

現在、青少年交流センターにおいてリーダーになりたい、全区的な活動をしたいといった中高生たちが集まる活動が行われています。そういった中高生たちも地元の児童館で活躍し、地域の担い手になってもらえることを期待しています。そして、職員同士も児童課の職員研修に青少年交流センターの職員が参加したり、青少年交流センター主催のキャンプに児童館職員が参加したりと児童館と青少年交流センターの交流も始まっています。

(森川係長)

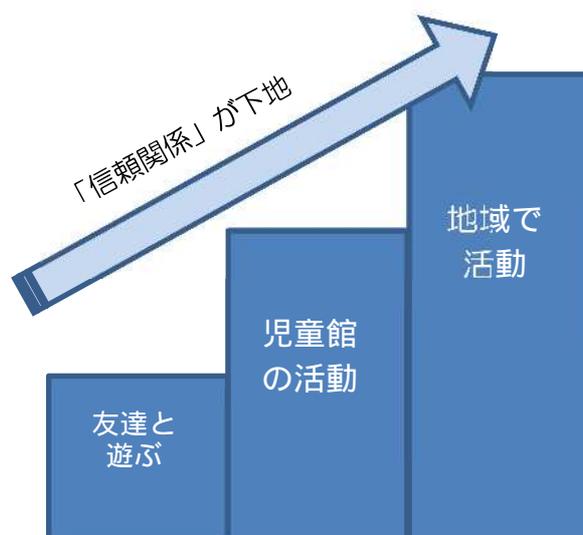
## “ みんなでやるとハードルが低くなる “

子どもたちは、小さな頃から児童館で良い思い出があると中高生になっても忙しい中をぬって、友人を連れ、来館してくれます。中高生の中には館内を走ったり大声を出したりして職員に注意されることもあります。名前を呼んでしっかりあいさつしたり、子どもたちの意見を肯定的に取り入れたりするなど、良好な関係を築きながら、児童館を好きになってもらえるよう心がけています。こうして、子どもたちとの関係作りを大切に続けると、時々パズルのピースのようにハマる瞬間があ

ります。例えば、児童館でたこ焼きパーティーをやろうと提案したときに、やろうやろうと子どもたちは、自宅から食材を持って集まってきます。同じような“ノリ”で野毛青少年交流センターなどの地域イベントに何か出してみないかと提案します。

児童館への信頼関係から、みんなでやればできるといった下地を作っておくことで、別のことをやってみようという提案した時に、参加へのハードルは低くなります。

(日下部館長)



### Matching Point



玉川台児童館は、児童館に来る子どもや中高生との良好な関係作りを大切にしていました。小さな頃から職員の声かけやイベントの企画・運営などを通して、児童館と関わり続けることで、多くの子ども達が中学生や高校生になっても児童館の活動に参加しています。



#### (4) 地域資源活用、大学連携

##### ) 岡さんのいえTOMO(地域共生のいえ)

岡さんのいえTOMO(以下「岡さんのいえ」)は、上北沢にある築70年程の木造の住宅です。畳の上に座り、ちゃぶ台を囲みながらのおしゃべりの声や足踏みのオルガンの音色が響くといった昭和のレトロな雰囲気をそのまま残す小さいいえで、日々地元の方々に賑わっています。平成19年に世田谷トラストまちづくりによる「地域共生のいえ」として出発し、毎週決まった日時に誰もが気軽に訪れることができる「開いてるデー」や水彩、手芸、囲碁クラブを開くなど、地元の方々に広く開放されています。

平成27年度には、岡さんのいえで日本大学文理学部と世田谷区が連携して若者支援プロジェクト“たからばこ”がスタートしました。岡さんのいえを中心に大学生が主体となって中高生世代を中心とした若者の居場所づくりに取り組んでいます。



昭和の雰囲気を残す一軒家

## 想いを受け継ぎ、重ねた歴史

現在、多くの大人や子どもがごちゃまぜで賑わう「まちのお茶の間」として地元の方々に親しまれていますが、その始まりは、戦後まで遡ります。

はじめに、この家で暮らしていたのは外務省でタイピストとして働いていた岡ちとせさんという女性でした。岡さんは子どもたちのために英語を教えたり、居場所として自宅を開放し、日々多くの子ども達の声で賑やかだったといひます。

岡さんが亡くなったあと、「地域の方や子どもたちのために役立ててほしい」という遺志を受け継いだ現オーナーの小池良実さんにより、地域共生のいえとして岡さんのいえが誕生しました。今も、見守り隊や支え隊といった多くのサポーターにより、その運営が支えられ続けられています。

さらに、オーナーが亡くなっても、その遺志を受け継いだ人たちの手で運営され、人の声で賑わい続ける岡さんのいえは、多くの研究者の興味も惹きつけ、多世代交流の場の研究題材になったり、メディアの取材を受けたり、先進的なコミュニティスペースとして取り上げられ続けています。



岡ちとせさん

平成27年8月6日に岡さんのいえ小池良実オーナーと“たからばこ”の日本大学文理学部社会学科後藤ゼミの学生よりマッチングの視点から岡さんのいえの取組みについてお話をうかがいました。



オーナー小池さん



日本大学後藤ゼミの皆さん

## “埋まっていた歴史が掘り起こされ、人の出会いがあるんです”

長く続けていると埋まっていた歴史がときどき掘り起こされて、人との出会いにつながる時があるんですね。例えば、岡さんが開く英語やピアノ教室には、本当に多くの子どもたちが集まっていたんですけど、当時いがくり坊主だった男の子がおじいさんになって、今は囲碁の先生として岡さんのいえに参加してくれたりしているんですよ。

他にも、いえの運営で悩んでいたある日、子ども・若者部の職員が門の前で、中の様子を眺めているところを見つけたんですよ。私はプレーパークの世話人をやっていた関係で、見覚えがある顔でしたから、すぐに声をかけて相談しました。そこから若者支援担当課を紹介していただき、日本大学と区の若者支援

プロジェクトに参加することになりました。しかも実は、日本大学文理学部社会学科の後藤ゼミにもこれまでに関わりがあったのです。「まちの居場所のドキュメンタリーを撮る」という授業の一環で岡さんのいえに学生が入り、利用者との間で行き違いが生じたことがあります。私が菓子折りをもって謝りにいったことがあります。後藤先生もその当時のことをよく覚えていました。失敗から逆に縁がつくこともあるんですね。

変化が生まれるので、つながり続けることが大事で、オーナーはその器にならなければいけないんです。

(小池オーナー)

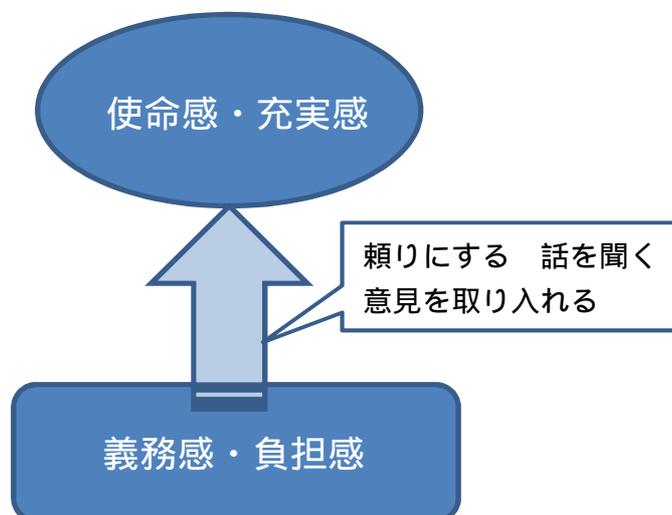
## “気がついたら巻き込まれているから不思議”

岡さんのいえで“たからばこ”の活動をするだけでなく、遊びに来る子ども達の相手や他の活動のお手伝いをするなど、ラフに広く関わるところからはじめました。最初は義務感があって、参加できることは全部やらなきゃと思っていたのですが、学生が自主的にシフトを組んだり、役割分担ができるようになるにつれて負担感がなくなり楽しく参加できるようになりました。

そう感じるようになったのも、子ども達と遊んだりしていると、小池さんが巧く巻き込んでくれるおかげなんですよ。大学生でも活動に対する意見や考えをちゃんと聞いてくれ

て。頼ってもらっていると感じて嬉しいし、期待に応えたい役に立ちたいという気持ちが湧いてくるんですね。それで気がついたら色んな活動に参加していて、ほんと、岡さんのいえマジックですよ。

(学生)





## Matching Point

岡さんのいえの活動では、岡ちとせさんの想いとそこに共感する人々の手で紡がれ続けていました。さらに、多世代がごちゃまぜで活動する中で、参加者がそれぞれの意見を大切にしてきたことで、今の世代が次世代の人材を育てる良い循環が生まれています。



## コラム ～若者支援だけじゃない！～

### (1) 砧地域ご近所フォーラム

毎年新たなマッチングが生まれている場があると聞いて、砧地域ご近所フォーラムの取材を試みました。

快くお引き受けいただいた砧地域ご近所フォーラム2016実行委員会実行委員長橋元さんと副実行委員長丸山さんにお話を伺いました。お2人ともケアマネジャーと薬剤師という2つの資格をお持ちです。

#### 職種を超えて

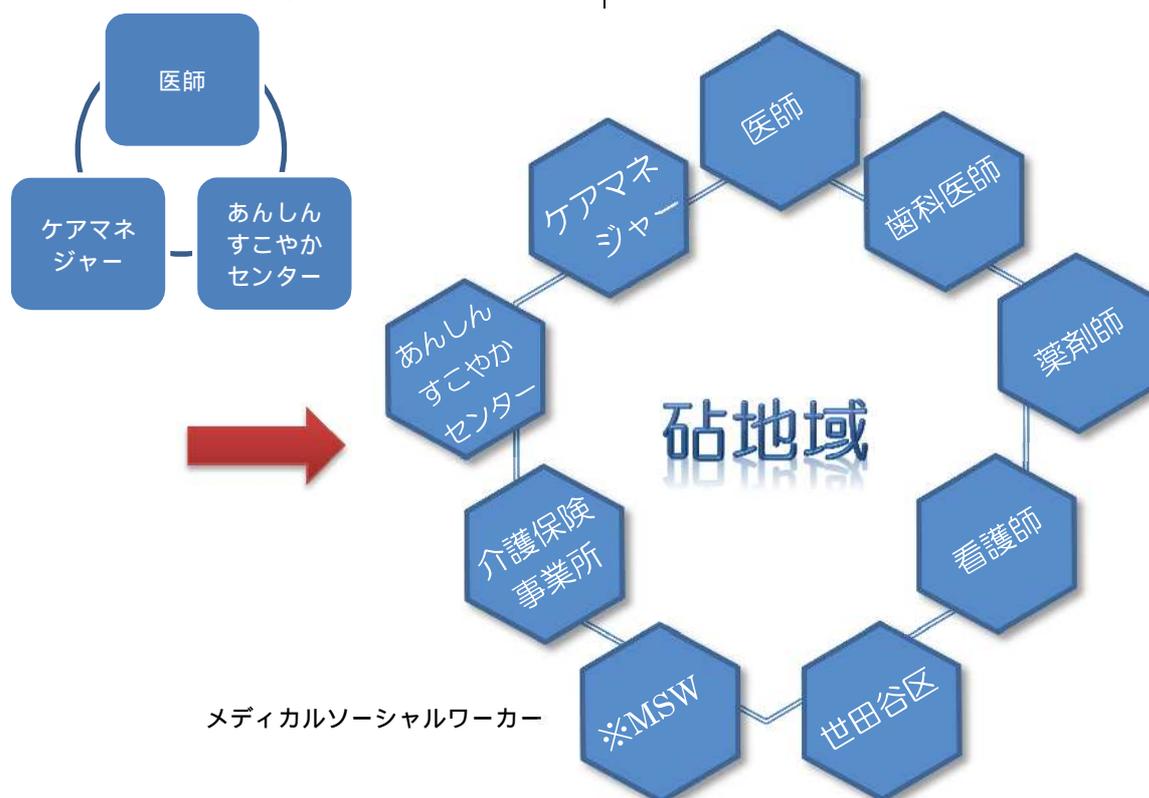
介護が必要な高齢者が地域で暮らしていくためには、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・ヘルパーなど多岐にわたる職種の関わりが必要です。

しかし、ケアマネジャーの多くが「医療連携が苦手」と感じており、医師の方からは「ケアマネジャーの顔が見えない」「介護保険はよく分からない」という声があがっていました。そこで、医師とケアマネジャー、あんしんすこやかセンターの顔の見える関係づくりを目的とした懇談会が開催されました。この懇談会は、会を重ねるごとに、病院ソーシャルワーカー、看護師、区職員、歯科医師、薬剤師と仲間を増やしていきました。だんだんお互いの顔が見えてくるようになり、連携しやす

い関係になってきたのです。

6回目の懇談会の時、参加者から「地域住民も巻き込んで、砧地域全体で顔の見える関係をつくろうではありませんか！」という提案が出され、多くの賛同を得て砧地域ご近所フォーラムの構想は動き出しました。

砧地域ご近所フォーラムは、実行委員会形式で運営されています。そのため、どの組織が主軸というわけではなく、連携して物事を進めてゆけるのです。実行委員会で話し合いを重ねることによって、お互いを知り、「医療や介護が必要になっても安心して暮らし続けられる砧地域をつくりたい」という意識をさらに醸成させていったのです。



## 砧を愛し、良いまちにしたいという思いは皆同じだった！

砧地域ご近所フォーラムでは、医療や介護、福祉分野の情報提供ばかりではなく、町会自治会、民生委員、ミニデイ・サロン、NPO など砧地域のさまざまな取り組みを紹介してきました。それぞれの熱意に触れ「砧にはこんなに素敵な取り組みがあったんだ」「まちを良くするために頑張っている人達がこんなにい

るんだ」とお互いに刺激を受けました。

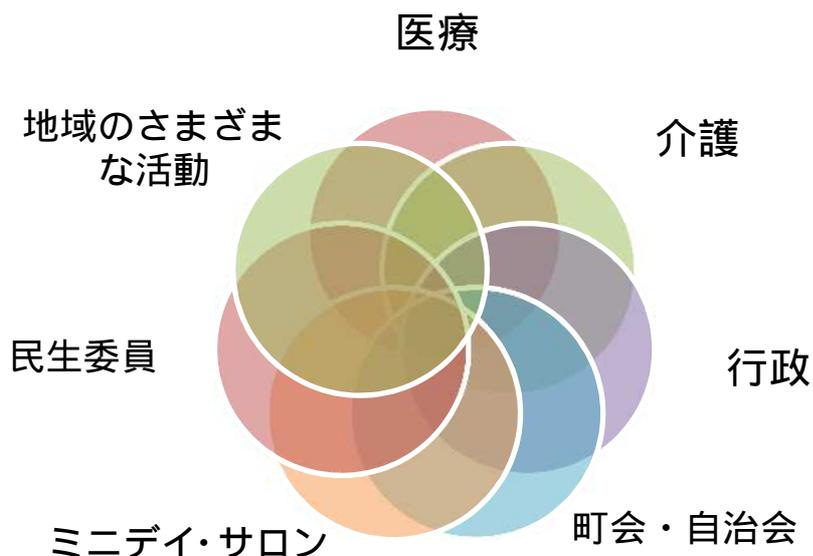
実行委員たちは砧地域の魅力にすっかりとりつかれ、ふだんから地域に積極的に向いいていくようになりました。「私も砧で暮らし続け、砧で死にたい。それができるまちにしたい」と思っているのだそうです。

## お互いを知ること新たな取り組みが！

第2回、第3回のフォーラムでは防災をテーマにしたのですが、この時に自治会の方から「避難所設営訓練に医師会の方も参加してほしいと考えていたけれど、なかなか実現しないのです」という意見が出されました。即座に医師から「ここで約束します。行きます」と力強い反応がありました。そしてその年の

避難所設営訓練・医療救護所訓練から医師会の全面協力がはじまりました。

実際に訓練をしてみるとまだまだ課題が山積していることも分かりましたが、町会自治会も、医師会も、そして日赤などの関係者も、お互いの頑張りに敬意を払い、お互いの姿に励まされているように思われます。



橋元さんと丸山さんは、今後も砧地域のあちこちの取り組みを探してつなぎ、お互いに連携できるような関係にしていきたいと考えています。「わ」と「わ」をつないで、もっと大きな「わ」を創っていききたいのだそうです。ちなみに「わ」は「輪」であり「和」でもあるのだとか。橋元さんと丸山さんそして実行委員会のマッチングは続いていきます。

地域をよくしたいという熱意が伝播して、つながりが広がっており、子ども・若者総合支援の現場と同様のマッチングが伺えます。



前列中央:橋元実行委員長 後列左:丸山副実行委員長

安心して  
自分らしく  
暮らし続けられる

砧

## 第2章 これらの現場から見えてきたもの

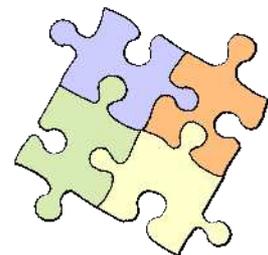
### 1 マッチングの視点から

#### 熱意が人をつなげる

せたがや若者サポートステーションでは、若者の就労支援をしっかりとやるうとする、また、その支援の対象外となる人を切れ目なくメルクマールせたがやにつなげようとする熱意があり、青少年交流センターや児童館の中高生支援館では、子ども・若者の青年期を保障すべく、やりたいことが実現できるようにしてあげたいという熱意がありました。また、岡さんのいえでは、元の所有者である岡ちとせさんの遺志に共感し、その輪が広がっています。それらは、中高生たちが楽しみながら夢中になって年少の子どもたちへの活動に取り組んでいる姿とも重なります。

関わる人たちの熱意が伝播していく広がりの中に、マッチングの視点である「目的を共有する」ことも含まれており、**熱意を持って取り組むことは、マッチングによる成果を大きなものにするにもつながります。**

目的達成への熱意が周囲の共感を得て、さらに広がっていき、様々な形で協力が得られるようになれば、スムーズに目的を達成できると思いませんか？



#### つながっていくことで望む方向に変化

熱意が伝わり始めたところでも、なかなか思ったような成果があげられないこともあります。今回の取材の中で、人と人がつながることを意識して続けていると、「パズルのピースがはまる瞬間がある(玉川台児童館長日下部さん)」「変化が生まれるので、つながり続けることが大事(岡さんのいえ小池さん)」という言葉がありました。その中には、マッチングの視点である「総合的な広い視点、長期的、多角的な視点」が含まれており、**時間がかかることや時間をかけてじっくり進めることの重要性が伺えます。**「続けてきたからうまくいっている」と実感した時に初めて、振り返った道のりが望むべき方向に進んできたことを知るような、長期スパンの考え方はとても重要であると考えます。

大人は、中高生たちを将来の地域の担い手として考えてはいるものの、どうしても即戦力として、性急に成果を求めてしまうところがあるようです。子どもが主体的に取り組むようになっていなければ、それは無理強いになってしまいます。

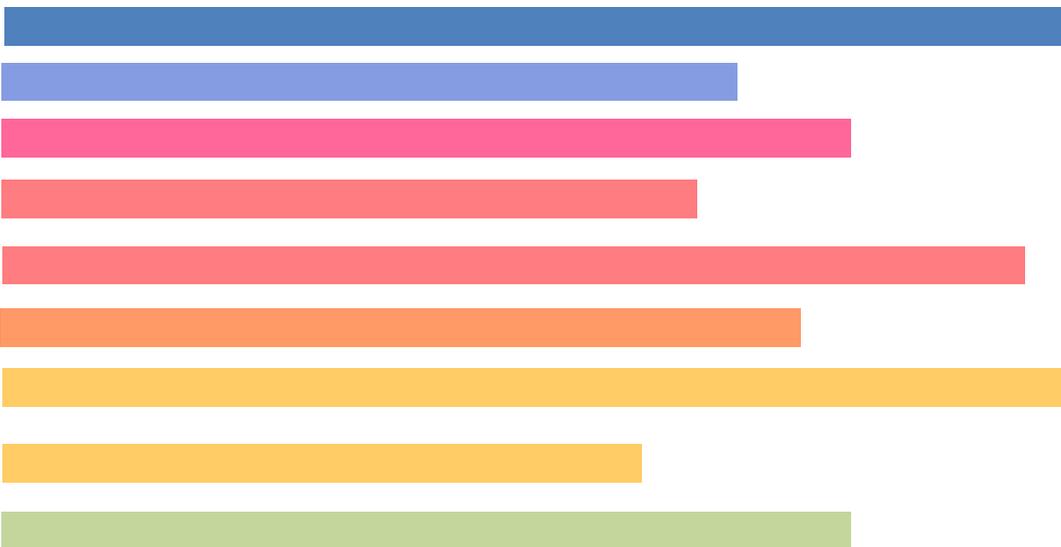
一朝一夕で成果を求めることで、マッチングの成果を手放してしまうことがあることを念頭におき、マッチングの成果が育つまで待つという姿勢も大切です。

## みんなでやることの相乗効果

子どもや若者の中には、まじめなことにまじめに取り組もうとすると、カッコつけているような気恥ずかしさが心の動きの中にあるようです。地域社会や職場は、幅広い年齢層の人たちで構成されており、熱意とエネルギーの塊のような人もいれば、表面的にはわからない人もいます。

今回の取材の中で、「みんなでやればハードルが低くなる(玉川台児童館長日下部さん)」「岡さんのいえは自分たちにとってゆるやかにつながる実践の場なんです(日本大学学生)」という言葉がありました。多くの人が協力し合っている様子が伺えます。

目標に向かって、ともに支えあい、協力し合うという何気ない普段の姿勢がマッチングの基本的な姿勢であり、実はだれにでもできていることです。



## 2 あなたのマッチング

前述のとおり、マッチングはだれにでもできていることとも言えますが、いつでもどこでもだれとでもと言われると、口ごもってしまうなんてこともありますし、逆に窮屈に感じてしまうこともあるでしょう。ましてプロの公務員として、なかなか実践の難しいマッチングを自分の仕事にどのように捉えるのか、次のステップで整理してみましょう。

### Step 01

#### 図に落としてみよう！（あなたの熱意を見える化）

熱意が空回りしそうなとき、空回りして自身のモチベーションが下がってきている、困りごとに直面しているときなど、絵に描いてみるなどビジュアル化すると現状が見えてきて分かりやすくなります。

研修ではお馴染みですが、状況をもれなく把握するためのKJ法<sup>\*1</sup>やマインドマップのほか、ロジックツリー<sup>\*2</sup>などの手法を使うことも有効でしょう。

\*1 ブレインストーミングにてよく用いられる手法

\*2 論理ツリーとも呼ばれ解決策の選択肢を洗い出す手法



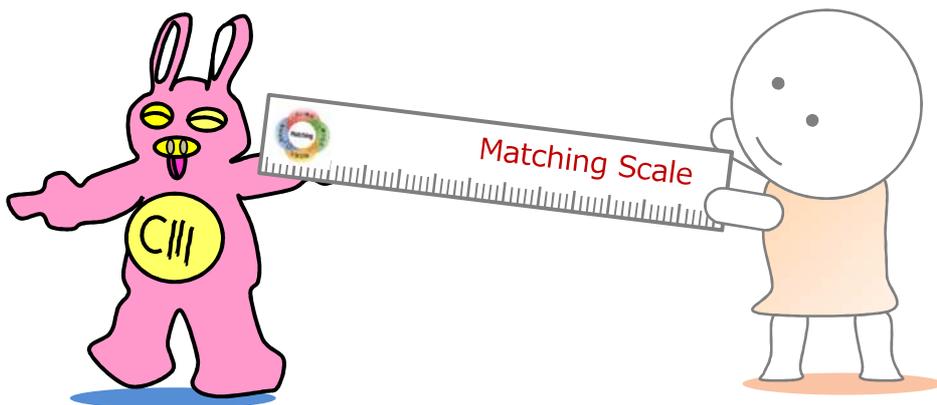
## Step 02

### 協力してくれそうな人を思い浮かべてみよう！

この件は、だれに相談しようかと、職員名簿をめくりはじめる同僚の姿を見かけることはありませんか？きっと同期や前の職場の同僚やサークル仲間、飲み仲間でしょうか。

どこでどのようにつながりができるか分かりません。日頃から積極的に協力できるという姿勢でいると、困ったときに協力を得られるということも多いのではないのでしょうか。日頃からの関係が大切です。

また、古くから日本では低姿勢で謙遜することは美德とされてきましたが、過剰に遠慮しては、協力は得にくいものです。協力を求める相手が忙しそうにしていたとしても、思い切って協力をお願いしてみましよう。あなたの熱意を自分で消さないでください。



## Step 03

### こちらから積極的にアプローチしよう！

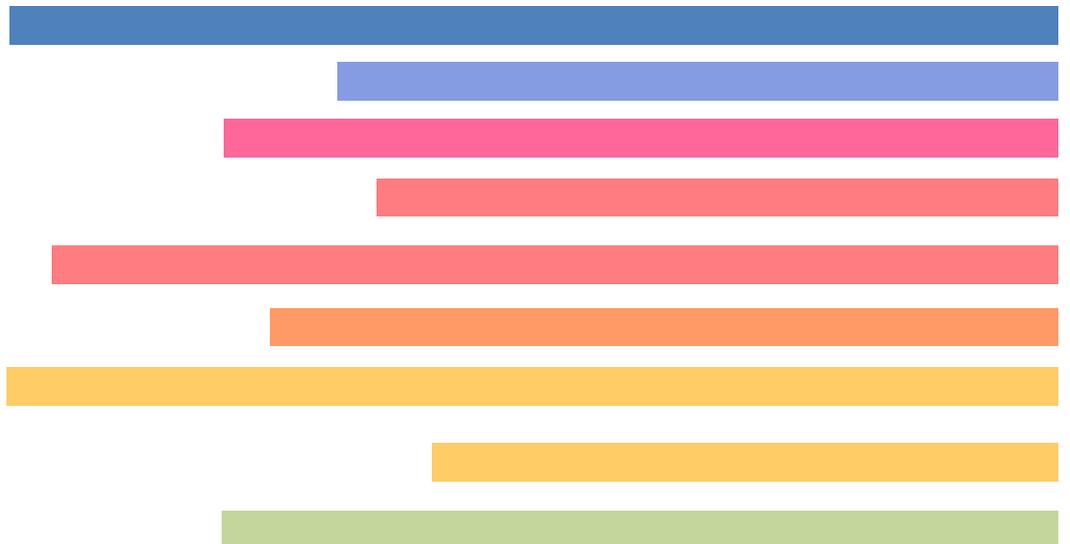
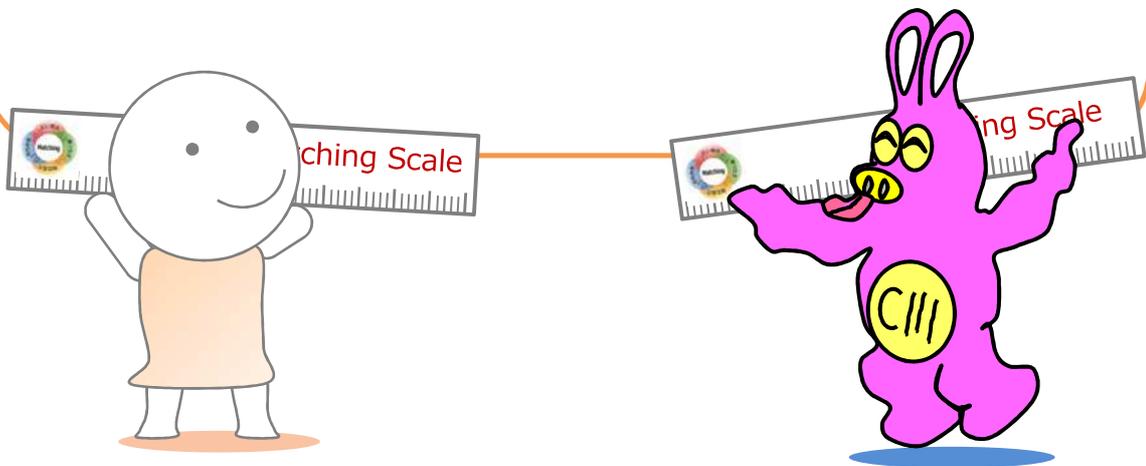
だれかが声をかけてくれることを待っているだけでは、まったく進まないというのが世の常でしょう。相手が動いてくれるかどうかは自分のはたらきかけ次第です。一石を投じなければ、波紋は広がっていきません。

呆然と眺めるばかりで機を失ってしまうよりは、何か手立てをした方がいいと、多くの方は思うのではないのでしょうか。動かなかったことを後悔するより、動いて後悔する方を選ぶ方がいいと思います。

Step  
04

### みんなでやろう！

一人で実践しようとするのは心細いでしょうし、冷やかされるかもしれないといった気恥ずかしさが邪魔をするかもしれません。多くの人に協力してもらいつつ、つながりを継続していくことで、さらにやりやすくなっていきます。仕事の面だけではなく、趣味やボランティアなどのライフワーク、プライベートの困りごとでも頼られるようになるし、協力を得られるようになるでしょう。生涯の協力者も現れるかもしれませんね（笑）



### 3 組織のマッチング

#### (1) もう一步先の親切

現場や地域住民あての説明資料が分かりにくいというだけで、その先のマッチングが途切れてしまうことがあります。見出しをつけたり、図表・グラフを入れたりするなど、ほんの少し手間ひまをかけるだけでマッチングが進むということです。本来は向こうの仕事だからこちらはここまでだと、相手に確認もせず、勝手に線引きをしたときの資料には、親切だと思えるものは見受けられないものです。

忙しい時ほど、資料を事前配布にするなど、わずかな気配りによって、得られる成果が変わってくる場合があります。

動いてくれるかどうかは相手次第です。職員の熱意を現場や地域に持ち帰ってもらえるかどうかは、資料のちょっとした親切次第なのかもしれません。



#### (2) マッチングを評価し、モチベーションを向上させる

就労支援の現場が、就労者数という目標だけを達成しようとするすると、支援が途切れてしまったり、結局失職してふりだしに戻ってしまったりし、就労希望の若者の根本的な問題を解決できていないという状況に陥ってしまいます。

また、組織にこだわらない目線での取組みは、人によっては、直接的に組織目標と関わりがない余計な部分であると捉えられてしまう場合も考えられます。その部分をどのように評価するのが工夫することで、大きな成果を得ることにつながります。

成果指標の設定のミスマッチが、マッチングを停滞させる原因にもなりうることを知り、うまく工夫してみましょう。成果指標の設定には、バランススコアカード<sup>\*3</sup>を使う方法も有効です。お試しください。

\* 3 財務指標だけでなく、財務指標以外の指標からも事業運営を評価し、バランスの取れた業績評価を行う手法。

### ( 3 ) マッチングの成長を長期的視点で見届げる。きちんと引き継ぐ。

つながりを継続することで生まれる変化を察知するには、長期的視点で経過を観察している人でないと気付けないことが多いと思います。変化を見逃さずに次のステップに進めることができるよう、進捗を管理することもマッチングにおいては大切なことです。

自分が担当しているときにその機会が訪れなくても、次の担当者にきちんと引継ぎを行い、バトンタッチしていきましょう。

### ( 4 ) 失敗からの学びを支えよう！

岡さんのいえでは子どもたちに、「ここでは失敗してもいいんだよ。」と伝えていました。「失敗を恐れずに取り組みましょう。」という言葉は、毎年、4月に、入社式での新入社員に向けた社長からのメッセージとして、ニュースなどで見聞きします。これは、マッチングの視点から捉えると、新入社員向けはもちろんのこと、人材育成をする先輩社員向けのメッセージとしても受け止めるべき言葉となります。

過去を振り返ってみれば、失敗から得た教訓によって、改善に大きく寄与した事例がたくさんあります。失敗による損失にめげずに改善につなげたという経験は、将来、大きな財産となります。それはそれとして分かりますが、失敗はしたくてするものではありません。新入社員といえども、なるべくなら失敗はしたくないはずです。

そこで重要なのは、責任は私がとってやるから、失敗を心配しないで、自信をもって精一杯取り組んで欲しいということをアピールすることや一丸となって取り組むことなど、ともに支え、支えられながら、仕事を組織で行っている風土を醸成していくことではないでしょうか。そこから人材育成もはじまるのではないのでしょうか。



## 第3章 これからのマッチング

### 1 マッチングレポート第2号の発行にあたって

区では、平成26年度より、組織と組織の隙間を埋めることで強靱な体制を築くことや新たな政策を生み出すことを目標として、マッチングに取り組んでいます。それらの実現に向けては、目的を共有すること、相互に協力すること、組織にこだわらない広い視点を持つこと、施策等を横つなぎ、組み合わせすることでより多くの効果が発揮されるよう果敢に実践することが重要です。また、類似した事業による展開など、取組みが重複しないように注意を払いながら対応することも肝要です。

マッチングの実践にあたって、例えば、マッチング推進会議をはじめ、オープンデータ推進に向けた関係所管の打ち合わせ、地方創生幹事会作業部会における総合戦略策定などの議論において、領域を超えた発想などにより、活発に議論するなど、新たな政策創出やきめ細やかな対応へと結びついています。

マッチングレポート第2号では、マッチングの実践にあたっての意識や姿勢、注意点などを示すとともに、具体的取組み事例に潜む新たな発想を汲み取り、次のマッチングにつなげられるようにと、読みやすい紙面にするなど構成等も工夫したところです。今後の取組みが多く事例となることを期待しています。

### 2 今後の取組みの方向性

平成28年度の予算編成においては、マッチングの視点により、各部連携強化のうえ、相互協力の姿勢のもと、東京オリンピック・パラリンピックなどの新たな課題も含め、対応ができるよう取り組んでいるところです。

引き続き、新たな発想につながるこのような取組みを紹介し、次のマッチングにつなげ、さらなる実践に結び付けていきましょう。そして、その取組みが区役所だけに留まらず、市民活動のみならず、やがては区民生活の場にも波及して欲しいという希望を、区民参加のまち世田谷区の将来につなげていきませんか。



## 《参考》マッチングレポートについて（第1号再掲）

### 1 経過

今日の変化の激しい時代、多種多様化する区民ニーズ、めまぐるしく変わる区政の課題に対し行政は、常に、最善の施策を組み立て続けなければなりません。そのためには、直面する政策課題に応じてさまざまな行政分野を組み合わせ、また、区民やさまざまな団体・機関などの推進主体に「参加」を呼びかけ、「協働」による関係のもとで、ともに課題の解決につなげて政策を進める必要があります。そこで、区は「マッチング」の考え方をわかりやすく整理し、行動に結びつけるための検討に取り組み、平成26年9月に「マッチングによる政策の推進に向けた検討」と題し、その検討状況をまとめ、庁内外に公表しました。

その後、さらなる議論を重ね、モデル候補として取り上げた取組みについては、関係課や外部団体等とのヒアリングを実施し、現場における声や苦勞されている点などを伺い、マッチングの視点から今後どう結びつけていくかを考える素材を探求し、その内容を今回、「マッチングレポート」としてまとめました。

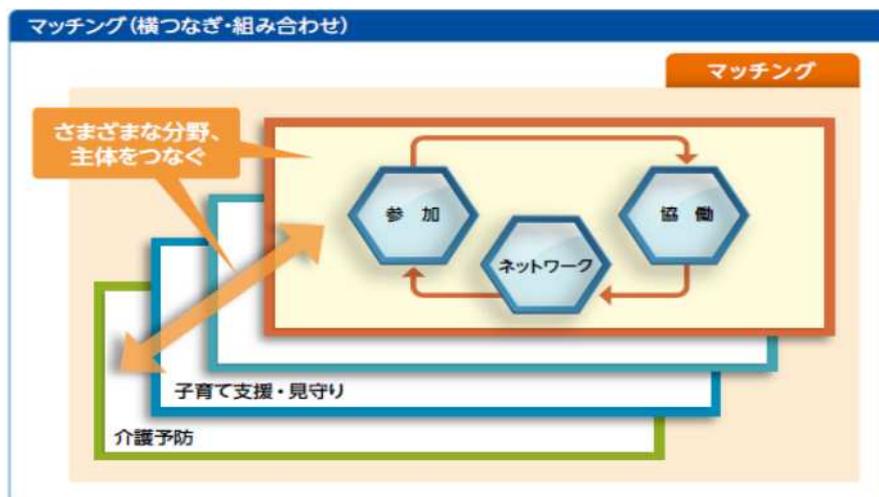
このレポートは、今後の事務運営や事業展開などに向けた進め方に関する考え方や取組み手法などについて、参考とすべく活用されることを期待し、定期的に庁内外に発信していきます。

### 2 「基本計画」におけるマッチングの取組み

基本計画(平成26年度～平成35年度)では、視点の中でマッチングによる政策推進の考え方を掲げました。

#### 【マッチングの定義】

目的を共有し、縦割りを超え、さまざまな分野や主体を横つなぎ・組み合わせることで、課題解決の力を高めるよう、相互に協力して政策を進めることを言います。



### 3 マッチングの基本的方向性（4つの要素）

マッチングによる横断的政策を進めることにより課題解決を図るために、「マッチングの4つの要素」を、以下の項目にまとめました。

#### 目的の共有

政策を推進するための複数の取組みにおいて、これまでの制度やしきみにこだわらず、問題を深く・広く捉え、課題の解決に向け、相互に求めるべき目的を共有します。

#### 各々の組織にこだわらない広い視点

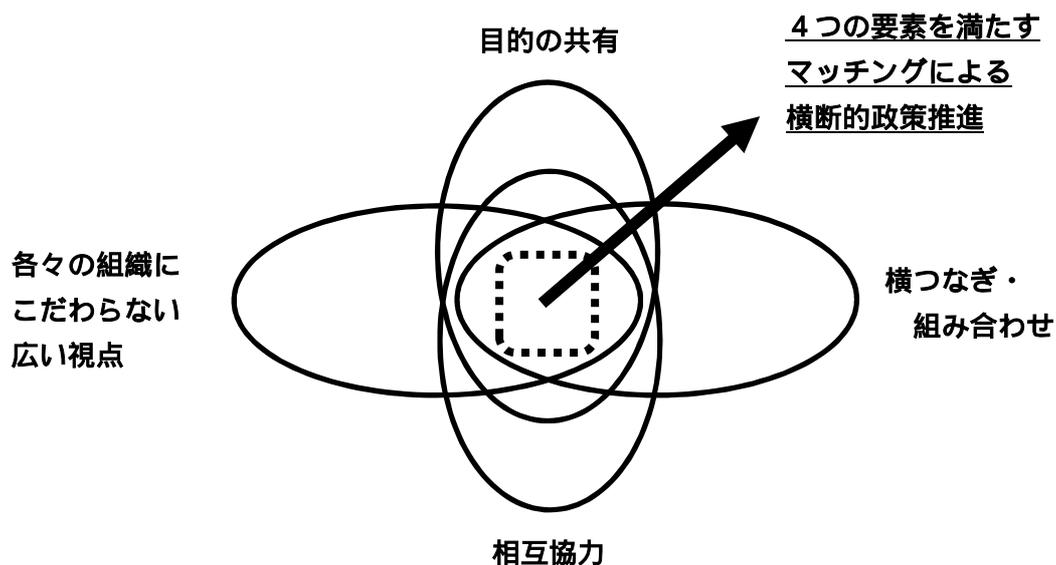
目的実現のためには、限られた組織や事業の範囲だけで課題解決にあたらず、組織横断的に、総合的な広い視点で取り組んでいく必要があります。

#### 横つなぎ・組み合わせ

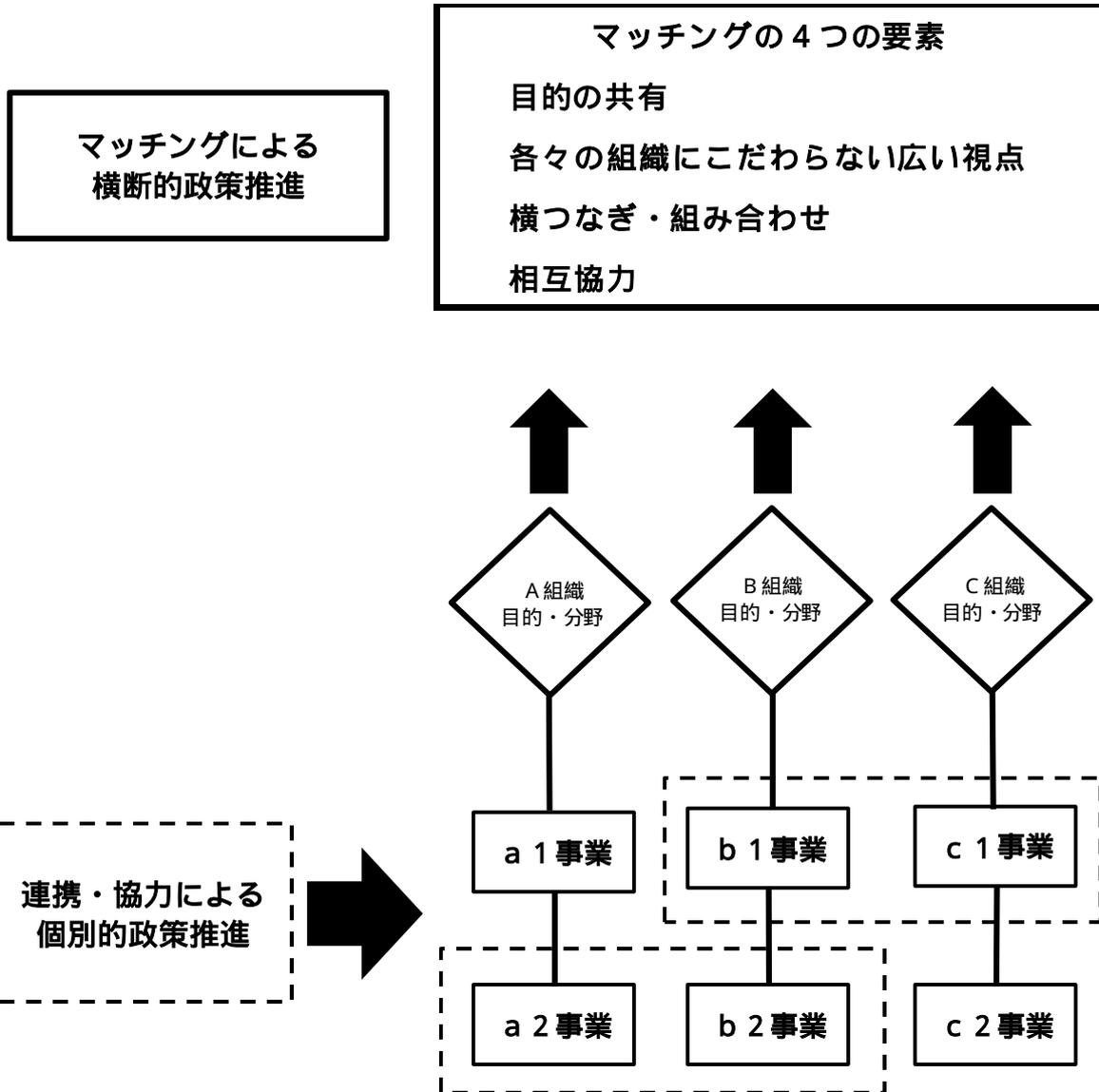
具体的な取組みにおいて、さまざまな行政分野の施策や、多様な区民・事業者などの参加・協働の活動を横つなぎ・組み合わせ、融合させることにより、長期的、多角的な視野を持ち、深く・広く考え、その力を最大限発揮することで政策を実現します。

#### 相互協力

区民・事業者等・区が相互に協力して、責任と役割を分かち合い、新しい行政サービスの創造や政策の実現に取り組めます。



(マッチングによる横断的政策推進のイメージ)



## 4 マッチングにより、めざしていく3つの挑戦

「4つの要素」を満たす取組みを進めることで、単独では得られなかった気付きや発見をもたらし、新たな政策を生み出し、柔軟で専門性も併せ持つ組織の強化や職員一人ひとりの意識の改革や向上をめざし、区民・事業者との強いネットワークの形成を進めます。

### (1) 新たな政策を創造する

#### ) 横断的な政策テーマの効果的な推進

- ・基本計画の重点政策などの横断的な政策を推進するため、身近なわかりやすい政策目標を掲げ、その達成のために事業をつなぎ、融合することにより、一層の政策効果を高めます。

#### ) 区と区民で推進する体制

- ・全庁の推進体制のもとで、引き続き、広く議論を通じて、マッチングを推進します。
- ・庁内はもとより、区民参加や協働を図るための、区の支援機能や事業への区民の理解を深め、区民への情報提供や多様な呼びかけを図ります。加えて、対等の関係づくりにおける、より明確な責任やルールのあり方の検討や政策情報のオープン化を進めます。

### (2) 組織のあり方を変える

#### ) 機能的で迅速な組織と窓口の充実

- ・区民目線や区民ニーズに対応し、行政の縦割りの弊害を排し、専門性を活かし横断的課題を収斂して、政策を生み出し推進するなど、マッチングによる政策を支える機動的で迅速に動く組織のあり方、組織の運営を進めます。
- ・利用者のための窓口の充実と申請手続きの総合化を進めます。「社会保障・税番号制度」を活用した区民サービスの向上と事務効率化、地区での災害対策や見守りなど、区やさまざまな活動団体が関わる事業において、区は地区での強化に取り組みます。

#### ) 民間活用等の効率的な公共サービスの運営

- ・効率的な公金運用、区立施設の用途転換など、より広く民間や区民とのマッチングを視野に入れた新たな行政サービスの拡充など、既存の形式に捉われない民間活用のしくみづくりを進めます。

### (3) 意識を変革する

#### ) 人材育成

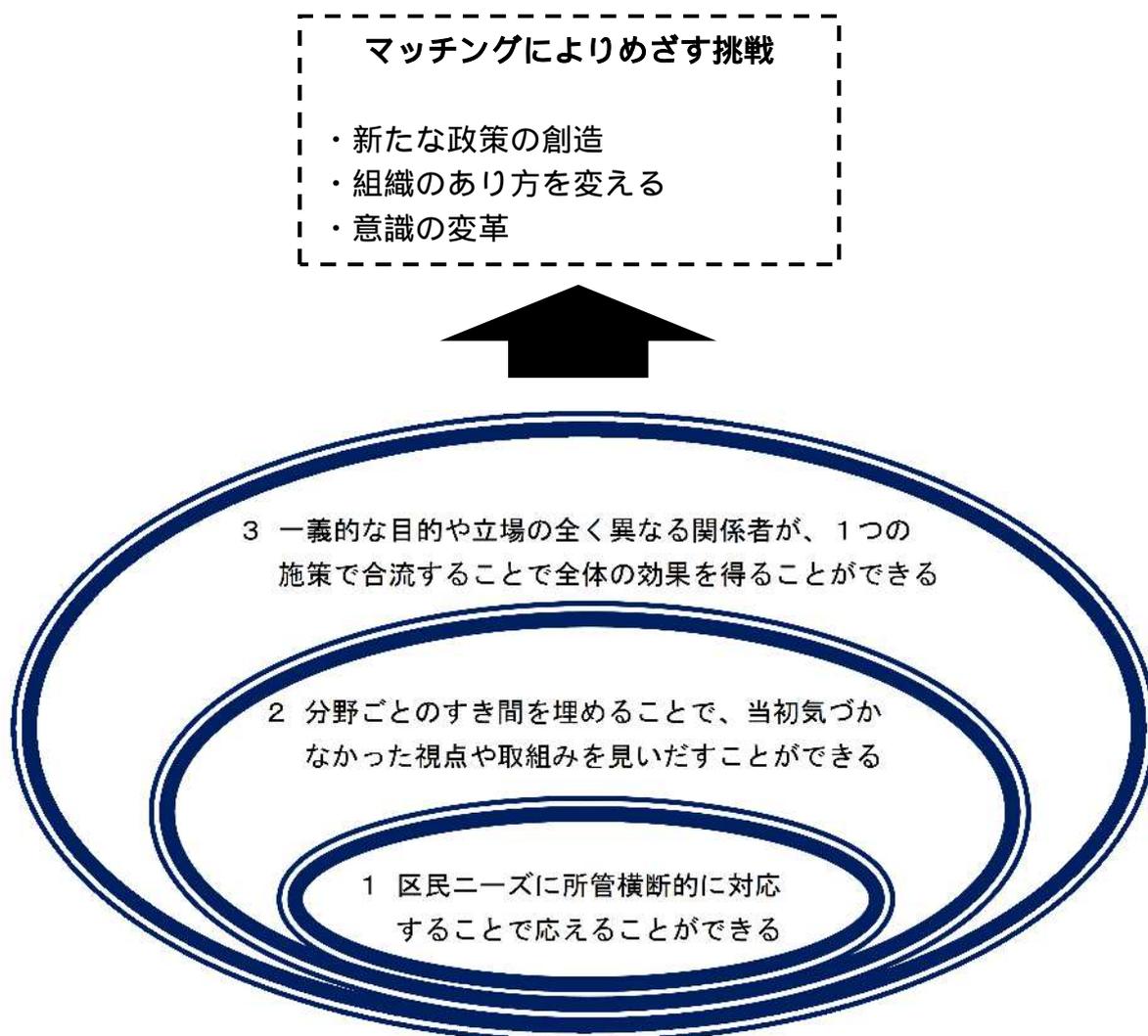
- ・マッチングの取組みを進め、その取組み事例などを広く共有することを通じて、職員はもとより一人ひとりの意識を高め、仕事への関わり方や協働の仕方など、より効果的な政策づくりと推進を支えるための意識や感度の向上を図り、人材育成につなげます。

#### ) 区民への呼びかけと浸透

- ・区民・事業者などにも呼びかけ、少しずつ広げ、マッチングの理念、考え方、基本姿勢を、実践を通じて浸透させ、変革を進めます。

## 5 マッチングのモデル

6 ページで掲げる「4つの要素」及び、以下の「3つのステージ」に照らし、6つのモデル候補を選定しました。



それぞれの事業目的を達成するために、対象や手法を広げ効果を高めることが求められます。

### (2) モデル候補の選定

6つのモデル候補

1) 地域包括ケアシステムの推進	4) 若者支援の取組み
2) 防災まちづくりの推進	5) 教育推進会議を中心とした取組み
3) NPOとの協働など市民活動の支援	6) 空き家・空き室の地域貢献活用

### (3) マッチングの取組み評価と改善

- ・マッチングの取組みについては、その取組みが、目的に照らしてどのくらいの進捗状況にあるか確認します。
- ・所管部とマッチング推進会議において、「4つの要素」に照らし合わせ、取組みを整理し、まとめて庁内に紹介します。

目的の共有

各々の組織にこだわらない広い視点

横つなぎ・組み合わせ

相互協力

### (4) 外部評価委員会による評価と改善

- ・マッチングの取組み状況を外部評価委員会へ報告し、外部評価を受け、改善点など、さらなる向上のしくみを構築します。
- ・新実施計画の進捗状況の中で公表します。

### (5) マッチングレポートへの反映

#### 【マッチングレポート第1号で取り上げたモデル】

地域包括ケアシステムの推進

防災まちづくりの推進

空き家・空き室の地域貢献活用

#### 【マッチングレポート第2号で取り上げたモデル】

若者支援の取組み

## 6 モデルから見えてくるもの

マッチングレポート第1号で取り上げたモデル、「地域包括ケアシステムの推進」「防災まちづくりの推進」「空き家・空き室の地域貢献活用」を通じて、マッチングの4つの要素の重要性を再確認し、モデルから見えてきたものを整理しています。

### (1) 目的の共有

#### 見える化

- ・目的を互いに共有するには、組織や団体間で、目的を見える化し、意思決定を経て常に共有する、さらにそれぞれの内部で確認し、理解を深める必要があります。

#### 共有維持

- ・状況の変化により、いつの間にか共有した目的がずれてしまうことがないように、目的を適宜、再確認あるいは更新する手間を惜しまずに、共有を維持します。

#### 手段の目的化に注意

- ・目的を置き換えたり、目的と手段を混同して手段を目的化してしまうことには、最大限の注意を払います。

#### 目標の設定

- ・目的の達成に向けた互いの到達点を確認するためには、目的を明確にしたうえで、より具体的な目標を適宜設定することが大切です。また、進捗状況に応じて柔軟に体制をつくらなければなりません。

### (2) 各々の組織にこだわらない広い視点

#### 違いの認識

- ・課題解決のために組織はつくられています。複数の組織で取組みを進めるためには、組織ありきではなく、それぞれの責任の違いを確認することが大切です。

#### 高い意識、積極的な姿勢で

- ・それぞれの組織の役割と責任を果たすことを基本に、課題とは組織の範囲を飛び出したり、重複したりするものであることを念頭に置く必要があります。課題をどのように解決していくか、より広い視点を持ち、問題意識を高め、積極的な姿勢で進めます。

### (3) 横つなぎ・組み合わせ

#### 工夫・改善

- ・事業は目的に応じてつくられていますが、区民は、日常生活の中に切り分けられない形で課題を抱えています。一つの組織では解決できない課題が多くあることを踏まえ、課題から浮かび上がるニーズ全体に対して、それぞれの事業や区民活動をいかにつなぎ、組み合わせると包括的な課題解決に至るのか、工夫や改善を行います。

#### 異なる視点

- ・連続してできないか、役割分担して担えないか、組み立てなおしてできないか、また、人や情報をつなげて協力の輪を広げます。異なる専門分野や立場の視点を加えることでスキ間を埋めたり、より効果的な取組みへと発展させたりします。

#### **組み合わせ・並べ替え**

- ・新たな取組みの多くは、既存の事業の組み合わせや並べ替えなどの手法により、生まれることがあります。より便利で、より有効な組み合わせについて関係者、団体等と協力しながら、模索していくことで創りあげるものです。

### **(4) 相互協力**

#### **ルールの明確化・共有**

- ・異なる組織や団体の方向性・動きを、常に保つことは容易ではありません。そのためには、それぞれ本来の役割を超える、あるいは重複することを認めた上で、常に役割分担を確認できるようにするなど、関係者同士でルールを明確化して共有する必要があります。

#### **体制維持**

- ・進捗状況を確認するため担当の窓口を明確にし、議論の場を設け、さらには、円滑な意思決定の仕組み(権限移譲ほか)をつくるなどにより持続できる安定的な体制を築き、その体制維持に万全をつくします。

#### **協力・信頼**

- ・協力と信頼は、課題解決につながる力とスピードを生み出します。

**4つの要素を実践し、継続することが、大きな改善・改革の実現につながる。**

---

---

発行日	平成 27 年 11 月
発行	世田谷区政策経営部庁内連携担当課
	電話 5432 - 2040
	FAX 5432 - 3047

---

---